

〔科目名〕 知の挑戦Ⅰ				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 野坂 真						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 「地域の個性を生かした災害復興と防災：東日本大震災の被災地で学び考え、未災地へ伝える part2」							
〔演習内容〕 東日本大震災の発生から10年以上が経ち、今度は日本海溝・千島海溝沿い地震の発生が予想されている。多くの地域で災害が日常化する今、過去の災害や危機に学び、今後起こるかも知れない様々な災害や危機へ周囲の人々とともに備えることは重要となっている。その際、被害を少しでも軽減するための減災だけでなく、画一的な復興ではなく地域の個性を生かした復興が重要となるが、減災・復興のいずれにおいても地域が主体となった事前の準備(事前復興)が重要となる。 そこで本演習では、今一度、東日本大震災の災害復興の現場にて実際に起こってきたあるいは今起こっている出来事を学ぶとともに、その成果を青森県内など身近な未災地の人々にも伝える調査・実践を行う。主なフィールドワーク先は東日本大震災の津波災害により大きな被害を受けた岩手県大槌町とする。最終的に、調査や実践の結果をまとめ、報告会と報告書の形で公開することを予定している。 なお、本演習ではフィールドワーク先を東日本大震災の津波被災地としているが、防災や復興だけをテーマとして扱うわけではない。より根本的には、地域が存続の局面に直面しながら、それでも存続してきた過程から、各人がどのように地域に向き合い、そして関われば、地域が存続していけるかを学ぶことがテーマとなっている。「地域存続の危機」という課題は、過疎化や少子高齢化が進む多くの地域で共通する大きな課題であり、本演習で学んだ知識は被災した地域に限らずほかの多くの地域でも応用可能と言える。							
〔科目の到達目標〕 (1) 具体的な地域でどのような課題が、なぜ起こっているか、客観的かつ多面的に調べ分析することができる。 (2) 具体的な地域で生じている課題への向き合い方や関わり方を、地域の個性と自分の能力をマッチングさせる形で考え、行動に移すことができる。 (3) 組織的にコミュニケーションを取り、行動する能力を身につける。 (4) 具体的な地域で行った調査や実践の結果をまとめ公表することで、情報リテラシーやプレゼンテーション能力を身につける。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○		○		
〔前提条件〕 ・授業中は、自分が考えたこと、他の学生や講師からの発言で重要と感じたことなどは、忘れないうちにノートなどにまとめておくこと。また、ディスカッションやグループワークの時間を設けるので、積極的に講師や他の受講者とコミュニケーションを取るよう心掛けること。 ・複数名で共同して行う調査・実践を伴うため、学生同士で、あるいは講師と、コミュニケーション(報連相)をよく取り合い協力しながら、参加すること。 ・授業中にエクセルでのデータ処理やワードでの原稿執筆などの具体的な事務作業が生じることもあるため、オフィスソフトがインストールされ、かつタイピング可能なノートPCやタブレット端末などの情報端末を毎回授業に持参すること。 ・授業時間外にも、調べものや報告の準備など、各自多くの作業時間を要する。本演習以外の活動により本演							

習に関わる作業時間が確保できないにならないよう、各自スケジュールの調整に努めること。 ・学外の人々と関わり合う場面では、大学の看板を背負っているという責任感と、学ばせていただいているという謙虚さを常に持って行動すること。 ＊「知の挑戦Ⅰ」の履修者は、秋学期に必ず「フィールドリサーチⅠ」も履修すること。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業への参加の主体性(グループワークやフィールドワークの準備・実施・とりまとめにおける貢献度や積極性など)＝40% ・授業内報告のために作成した資料と報告の内容、ディスカッションでの発言の内容(着眼点の鋭さ、調べものの的確さなど)＝20% ・最終成果物の内容(検討方法や検討結果の妥当性など)＝40% ※毎回の出席は前提とする(冠婚葬祭、出席が難しいほどの病気や怪我などは、事前に連絡すれば欠席可)。 ※フィールドワークやグループワークの準備・実施・とりまとめへ参加しない場合、最終成果物を提出しない場合、いずれも単位は取得できない。フィールドワークは主に夏の休講期間中と秋学期中に実施する予定だが、参加者各自の問題関心等によりそれ以外の期間にも実施する可能性がある。 ※単位 A、B、C、D、F いずれかになるかを判断する基準は大学による基準にもとづく。	
〔教科書等〕 ・文貞實・山口恵子・小山弘美・山本薫子編著『社会にひらく 社会調査入門』(ミネルヴァ書房)2023 年 ・野坂真著『地方社会の災害復興と持続可能性―岩手県・宮城県の東日本大震災被災地からレジリエンスを再考する』(晃洋書房)2023 年 ・野坂真編『災害遺族の心の復興過程記録集 わすれな草 第1集～第3集』2022～2023 年 ・2024 年度「知の挑戦Ⅰ」の調査報告書(非売品、授業の第1回で配布)	
〔実務経歴〕 なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル ＊受講者の理解度や実際の作業の進捗などにより各回の内容や順番が変更となる可能性あり	
時期	テーマと内容
春学期 前半	テーマ:フィールドワークの方法の学習、先行研究の精読や調査対象地に関する事前調査 内容:参加者同士でのアイスブレイク、リサーチクエスションの立て方とリサーチデザインの検討方法に関して理解する、岩手県大槌町を中心に津波被災地の復興過程を調べ発表する、等
春学期 後半	テーマ:調査企画の検討、模擬調査、フィールドワークの準備 内容:具体的な調査項目の検討と発表、フィールドワークの模擬体験、調査対象者への調査依頼、調査スケジュールと調査マニュアルの最終確認、等
夏季休 講期間	テーマ:フィールドワークの実施、調査記録の作成とデータベース化 内容:岩手県大槌町を中心に東日本大震災の津波被災地での現地調査を実施する、受講者各自で文字起こし記録や観察記録や写真などをまとめてデータベース化しておく、お礼状を作成し発送する、等
秋学期 前半	テーマ:調査のふりかえりと今後の計画の確認、調査結果のとりまとめと中間報告、フィールドワークの実施 内容:受講者各自で調査から分かったことやそこから言えることを暫定的にまとめる、まとめた内容を大学祭で展示したり被災地で報告する、被災地でのフィールドワーク、等
秋学期 後半	テーマ:分析レポートの執筆、調査協力者への原稿内容の確認、最終報告書の作成と最終報告 内容:受講者各自で調査結果をもとに分析レポートを執筆しその内容を授業内で発表する、調査協力者へ最終報告書に載せる原稿内容の確認を依頼する、調査協力者からの原稿確認の結果をもとに最終報告書に載せる原稿を修正する、最終的な調査結果報告会を開催し調査結果を受講者各自から発表する、等